

### 1. 教育目標

骨・関節など整形外科関連の運動器に関する、生物学的および生体力学的もしくは臨床研究を行う。その研究の目的となる臨床上の課題を明らかにするための学習もあわせ、研究対象となる問題点に対する深い洞察を行う。同時に研究を行うための基礎的な知識や技術も学習し取得する。研究成果を整理、考察して、学位論文として作成・発表するための過程を理解し、行う。

### 2. 到達目標

- (1) 運動器（骨、関節、脊椎、神経など）に関する解剖、生理、生体力学などの多面的な知識を修得する。
- (2) 専門領域における国内外の文献を理解し、従来からの、また最新の知見を得る。
- (3) 研究を行うための技術や手技を修得する。
- (4) 研究結果を正しく整理し、考察するための基礎的な知識（プレゼンテーション手法や統計学的解析など）を修得する。
- (5) 得られた研究結果を論理的に考察し、その内容を発表する。また、最終的に学位論文として仕上げる。

### 3. 成績評価の方法と基準

成績の評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、到達目標に対する達成度及び修得すべき基礎知識・技能の修得度により行う。

課題におけるレポート提出（30%）、研究成果のカンファレンスや研究会での発表（40%）、発表・討議の内容（30%）

### 4. 教科書・参考書

特に定めない。

必要に応じて参考資料等を作成・配布する。

### 5. 準備学習

予習としては、事前に参考資料もしくは授業のテーマに関する文献を検索し、読んでおいて授業・実習に臨むこと。（1時間以上）

復習としては、講義内容を整理し、参考資料や文献の内容も合わせ、レポートを作成する。

（0.5～1時間程度）

### 6. フィードバック方法

当該年度修了時に提出する「研究計画書」、又は「研究進捗・指導状況報告書」によりフィードバックを実施する。

## (第1学年・昼間開講)

## 【整形外科学】

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
講義	骨関節神経疾患の基礎と診断法	橘主任教授 井石琢也助教	月/1限	通年	4	外来
演習	外国文献の抄読・症例検討	井石智也講師	火/1限	通年	4	医局
実験研究	脊椎脊髄外科手術の適応と実際	橘主任教授 圓尾准教授	火/2,3限	通年	4	手術センター
実験研究	神経筋疾患の手術適応と実際	橘主任教授 土山助教	木/1,2限	半年	2	手術センター
実験研究	関節疾患の手術適応と実際	中山臨床准教授 武田臨床講師	金/1,2限	通年	4	手術センター

## (第1学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
講義	骨関節神経疾患の基礎と診断法	井石琢也助教 森本助教	月/6限	通年	4	医局
実験研究	脊椎脊髄外科手術の適応と実際	有住講師 木島助教	火/6,7限	通年	4	医局
演習	外国文献の査読・症例検討	井石智也講師	火/7限	通年	4	医局
実験研究	関節疾患の手術適応と実際	中山臨床准教授 武田臨床講師	水/6,7限	通年	4	手術センター
実験研究	神経筋疾患の手術適応と実際	橘主任教授 土山助教	木/6,7限	半年	2	医局

## (第2学年・昼間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
講義	運動器外科の基礎臨床	森本助教	月/1限	半年	2	医局
演習	関節疾患の手術のワークショップ	中山臨床准教授 井石智也講師	火/1限	半年	2	外来
実験研究	神経筋疾患の手術の実際	橘主任教授 有住講師	金/1,2限	通年	4	手術センター
実験研究	脊椎脊髄疾患の基礎と診断法	圓尾准教授 木島助教	金/3,4限	通年	4	外来

## (第2学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
実験研究	脊椎脊髄疾患の基礎と診断法	圓尾准教授 木島助教	月/6,7限	通年	4	医局
講義	運動器外科の基礎臨床	森本助教	火/6限	半年	2	医局
実験研究	神経筋疾患の手術の実際	橘主任教授 有住講師	水/6,7限	通年	4	研究室
演習	関節疾患の手術のワークショップ	中山臨床准教授 井石智也講師	木/7限	半年	2	医局